

(1)

叫びかけ

詩を愛すること、人が生活に愛する

こと、一つである人の牛が、日中、中野驛場

、農お、学校、家庭よりあやうれ、近代詩の

打開を現実の場へ求め、詩精神を合流して、

輝かしい未来を、天の夜空に照らし出してより

数年、

たか、と、炎が、人間を、来るの声を、叫び集め

未来へのさまを、げを突き破る、はあかぬ力

を、つたゆに、国民を、再び、戦争へ、心きずらう

とすゝ為政者の圧迫をうけて、いま山嵐の中に
烈しくゆらいでいるのがす。

私たちが政治が正しく行はれぬとき、国民
の不幸を最後に救うものは、組織された良心
の力以外にないことを経験して来ましたし、
生活よりの歌聲が詩として高められるとき、
文学の自然な機能として、この組織が組織さ
れた良心が砦が国民の中に強く手ぶかれよこ
とを信じています。

さあ、今こそ執い甚感をもつて、
二の砦を

砦の

はりめぐく時サ、クル運動に全力を注いで
 はありませんか！ 、「われ」の「詩」の会、は、四
 年向の活動に立ち、新「決意」も「これ
 ま」の「欠陥」を「偏向」を「克服」し、今を「固め直す」
 と「実行」し、「う」つし「まし」た。
 「と」り「きめ」る「整成」し、此「り」出「す」に「力」を「注
 ぎ」し、と「す」る「人」は「直」ちに「会」員「と」し、
 「さ」い、い「ま」い「て」の「会」員、
 読者も「改め」る「と」り、自
 覚により「入会」の「意志」を「表明」して「取」手「を」い、
 新「読者」の「組織」を「固め」、
 新「読者」

を周囲に播成し、強力な運動を以てあげよう
思ひます。

炎が炎であるかぎり、国民の心に精み重ね

る水は生路の生本は、必ず詩のうたでえを

げ、えんえんたる火光は、わがて夜空を眩に

みくこでいよう。

一五三・二・一。

われらの詩の会。